

IFALPA Security Committee Meeting in FUK 出席報告

2024 年 11 月 14 日から 16 日の 3 日間に亘り、IFALPA Security Committee Meeting（以下、SEC COMM）が福岡市内の会議場で開催されました。今回は欧米やアジアを中心に 12 ヶ国から 17 名、地元開催となる ALPA Japan から Security 委員長を含む 7 名の計 24 名が参加しました。

SEC COMM では、パイロットの視点から航空保安上の課題について議論を行い、必要に応じて意見表明を行うなどの活動を行っています。今会議では ICAO の航空保安関連会議で討議された内容の共有、空港への不法侵入対策、航空機内外の安全対策、パイロットのステイ先での安全対策などについて情報交換や議論が行われました。



紛争地域及び周辺地域における飛行

SEC COMM には欧米出身の委員が多く、彼らが所属する欧米航空会社の多くが周辺地域を飛んでいることから、ウクライナや中東での紛争勃発が民間航空機運航へ与える影響は最も関心度の高い議題です。特にイスラエル、イランや紅海周辺地域ではミサイル等の発射がある中で民間航空機の運航が行われており、正確で適切な情報の入手方法や、機長が運航の最終判断できる体制の構築等が必要であることを確認しました。

全地球衛星測位システム(以下 GNSS)の妨害を含むサイバーセキュリティ

全世界的に発生しているGNSS のなりすまし(Spoofing)や妨害(Jamming)は、会議の中でも関心度の高い議題の一つでした。実運航でも航法装置誤作動などの影響が出ていることから、パイロットに対する注意喚起や GNSS へ過度に頼らない航法を構築することの必要性について確認しました。

ICAO においても運航の安全性を確保する観点から VOR、DME や ILS を使用した従来型の航空保安無線施設を維持すること、バックアッププランの策定について討議されたと報告がありました。

この問題について IFALPA は、IFATCA(International Federation of Air Traffic Controllers' Associations、国際管制官国際連盟)、ECA(European Cockpit Association、欧州パイロット協会)、FSF(Flight Safety Foundation)と共同であるべき考え方(Position Paper)を表明しています([25POS07「Disruption of GNSS Signals」](#))。

※この内容は日本のパイロットにとって非常に重要であることから、ALPA Japan が Technical Information として発行しました。これを機にご参照ください([48ATI01「GPS\(GNSS\)信号の妨害行為」](#))。

Unruly Passenger(粗暴旅客)対策

機内における粗暴旅客への対応も航空保安における重要なトピックです。IATA の統計によると、粗暴旅客の主な要因はアルコール等の摂取となっており、空港内や機内におけるアルコール提供の是非について議論し、一定度の制限を設ける必要性について確認しました。

従業員や会社による SNS 利用上の課題

旅客ならびに従業員や会社による SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の利用について、セキュリティ上の課題があることを話し合い、今後なんらかの情報発信が必要であるという方向性について確認しました。従業員が積極的に SNS 上でアピールすることを推奨する会社もある中、操縦室内ならびに客室内の映像が世に出回ることに対するリスクについて討議しました。

その中で ALPA Japan からは、昨年(2023 年)に日本で施行された「性的な姿態を撮影する行為等の処罰及び押収物に記録された性的な姿態の影像に係る電磁的記録の消去等に関する法律」(以下、盗撮罪)を紹介し、一つの抑止策として注目を集めました。これに関連して、オランダの航空会社(KLM)では、許可なく乗務員や旅客を撮影することを禁ずる旨の機内アナウンスが毎便実施されていると共有がありました。

人工知能(AI)の活用

中東の一部の国では SNS の情報と旅客情報をリンクさせ、AI を用いて要注意人物の抽出に使用しているとの情報が共有されました。また、不審な動きや通常と違う状況(例えば普段車が止まっていない場所に車が止まっているなど)の監視カメラ映像を AI が自動検出し、活用されている事例なども紹介されました。

National Update

会議では National Update と称して、各国の保安関連事象や課題について報告があります。以下、簡単に内容を共有します。

＜日本(ALPA Japan)＞

- ・全国的な人員不足と保安要員確保の課題
- ・北朝鮮によるミサイルの発射
- ・10 月に発生した宮崎空港での不発弾爆発
- ・バックグラウンドチェックの課題

＜オランダ＞

国家レベルでの搭乗不可旅客(ブラックリストまたは No-fly-list)の共有について

※EU の一般データ保護規則(GDPR)も障壁となっているとのこと

＜英国＞

環境活動家が空港に侵入し飛行機に落書きした事例、保安検査機器のソフトウェア不具合の影響により、液体持ち込みに関する規制の変更があったことの共有

＜シンガポール＞

顔認証システムを用いてパスポートなしで空港内の全ての手続きを完結できるシステムの紹介

＜タイ＞

バンコク空港周辺での多数の UAS の運航。ミャンマー周辺空域での GPS Jamming/Spoofing

<カナダ>

ステイ先の安全確保の為に、位置情報を用いて安全情報を受け取れるアプリの紹介

<米国>

Known Crew Member (KCM)制度における生体情報の利用、Secondary Barrier の進捗状況

重重量でスペースも必要な先端保安機器

今回の会議には [Airports Council International Asia Pacific & Middle East](#) (ACI APAC)の方を招き、アジア太平洋地域における空港のセキュリティについてプレゼンテーションを受けました。アジア太平洋地域には 40 ヶ国あり、資金力や文化的背景は違うものの、保安に関わる人員不足や経験不足が共通の課題です。また全体のセキュリティレベル底上げには、特に資金力や資源力の乏しい小さい空港に対する援助が重要であるとのことでした。

CT スキャナーなど先端保安機器の導入には、予算面以外にもハード面での課題があるということがわかりました。先端機器は従来の X 線装置と比べサイズも重量も大きく、古い空港では床面の強度が弱く、またスペースも足りないということも導入に向けたハードルとなっているようです。

身近に潜むセキュリティの脆弱さ

「メニューと注文はこちらの QR コードから」というお店が増えていますが、その QR コードが本当に正しいか疑ったことはありますか？ ほとんどの方はスマホを取り出し、何の疑いもなく読み取ってないでしょうか。そんな中、今会議では空港のレストランで正規の QR コード上に偽の QR コードを貼り、情報を抜き取る、スマホにウィルスを侵入させる事例があったとの紹介がありました。



<この QR コードを読み取ると？>

このように、航空業界以外にも世の中には様々な脅威が潜んでいます。IFALPA SEC COMM では、顕在化した/していないものを含む様々な脅威から航空を守るという視点で活動を行っています。また Positive Safety Culture (安全文化の推進)に倣い、皆が積極的に参加する Positive Security Culture (航空保安文化の推進)構築を目指しています。少しでも皆様が航空保安について興味を持って頂けたら幸いです。

最後に

今回の日本開催は、コロナ禍を経て 4 年越しでの開催となり、地理的に近いことから通常より多くアジアからの参加者が見られました。日本からも多くの委員が参加することができ、有意義な会議となりました。

次回は 2025 年 11 月にシンガポールで開催予定です。

以上

* QR コードは ALPA Japan の HP に飛びますのでご安心を！

